

人質数は各組合支部よりの通告状の数と同一につき

四 確たる数字である。

四 債銀の換算は各職業によりて、大抵債限を以て計

算した。丁度東京本部から一人一人に債銀を支拂つ

て出巻させる様を考へて、

の撤費、遠方は野田を合志が大抵東京市及市外からであ

る。として、更の資費換算である。

二 全計算中、同曜日からあるかの日はお互の犠牲とし

て算入しない。

六 全應援人質中市電自治會應援者を合去し。

全争議件数百二十六件中勝利に終つたもの六十八件を算

し妥協ニ下八件に、惨敗層八十件である。

組織部報告中に表示された終同盟一年の發展率と此の争

議の結果とを比較対照すれば、争議の好成績か、如何に考
く組合の發展を助成せしめてゐるかの判断であらう。

總同盟内に於ける金屋並に雜種工業(各理合同労働組合)の
組合は勿論、争議件数に於て常に第一位を占めてゐる。

然し乍ら本年に入りては、永らく影を消めてゐた、紡

織労働の争議紛議が八件も行はれ、然し殆ど有利に解決し

た。たるは、真に悦びに堪へない。それは、將來当然に解決し

實力を以て開拓し、闘争し、獲得し終らねばならぬ日本

一の大産業が紡織産業であるからである。

二 事業の争議が六件も行はれ、悉く勝利に歸してゐる。

三 職業的の団結に、更に産業的に団結組織し、これ

未だ二組合の奮闘であるか、之によつて東京府に於ける

車工労働者の大争議を組織したるを思はば、實に意義あり

成果である。